

令和6年度 新宿区立鶴巻小学校 学校経営方針

令和6年4月 校長 佐藤 弘明

《目指す学校像—温もりと優しさに満ちた安心できる場所—》「児童が今日一日を心に描き、期待に胸をふくらませて登校する学校」

【児童にとって】—楽しさと生き甲斐—	【教師にとって】—向上と協働—	【保護者・地域にとって】—信頼と親しみ—
○学ぶことが明確、学ぶ充実感がある ○頑張りが認められ、自信が湧く ○共に学び生活する喜びと、ドキドキワクワク感動体験がある	○資質向上と高め合い ○責任の意識と互助の精神で ○持ち味や専門性を生かす ○子供のために結束して力を發揮	○この学校なら、この先生ならといわれる地域の信頼スポット ○保護者・地域と共に歩む姿勢で、日常の努力を公開し協力を得る

《学校の教育目標と目指す児童像》「将来の社会を生き抜くために必要な知恵と優しさと精神力の基礎を身に付けた子」

よく考える子ども	思いやりのある子ども	たくましい子ども
■課題意識をもって主体的に学び、確かな理解を積み上げる子 ■チャレンジする心で集中して粘り強く学び、考えを深める子 ■自分の考えや思いを互いに伝え合える表現力を身に付けた子 ■人や社会、自然との関わり方のあるべき姿を考える子	■友達のよさを認め、互いの頑張りを喜び合える子 ■相手の立場になって考え、優しい心で関わる子 ■心が一つになる心地よさを実感し、協力してやり遂げる子 ■人や社会、自然のあるべき姿を求め、すすんで関わっていく子	■健康、安全に気を付け、すすんで体力を高める努力を続ける子 ■心が健康で、返事・挨拶・後始末がしっかりできる子 ■健全な心と体で、困難を乗り越え、やり遂げる子

小学校学習指導要領・都や区の教育目標や重点の実現も目指して

《学校経営の重点》

都や区の教育課題への取組や保護者・地域の願いも意識して

「本物との出会い、本気、チャレンジ、責任、貢献、達成感」をキーワードに、人や社会、自然と豊かに関わる「鶴巻小だからこそ」できる教育活動の積極的推進

(1) 工夫と成果が目に見える教育活動の充実	(2) 心と体の健全な育成のための指導	(3) 教師自らの変革による教育の活性化
<p>●児童の主体的な学びを促す。⇒校内研究を通して授業実践や意見交換を行い、各教科・総合的な学習の時間や特別活動等において、児童一人一人の主体的な活動を促す指導の工夫を進める。</p> <p>●学び合いを重視した課題解決的な学習を日常的に実施する。⇒児童一人一人の個性や思考力・判断力・表現力、幅広い読解力の伸長等、主体的、対話的で深い学びを推進する。また、外国語・外国語活動においては、各種テキストやデジタル教材等を計画的に活用し、体験的な活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。</p> <p>●言語活動の充実を図り、論理的思考力・表現力を育成する。⇒全教育活動において、筋道を立てて話す力や書く力等の言語活動の充実を図り、言葉を用いて表現できる児童を育成する。</p> <p>●基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。⇒「朝学習の時間を設定し、効果を上げる工夫」「漢字力、計算力の指導（家庭学習の習慣化）」「音読、読書指導」「習熟度別指導」「放課後個別指導、つるっ子塾」の充実を図る。</p> <p>●本物（人、社会、実物、自然など）から学ぶ活動の計画的実施と充実を図る。⇒「諸感覚を使う体験」「その道の達人から、その技や能力、生きざま等を学ぶ」「地域の環境を生かした環境教育」「自然や食との関わりを生かした生命の教育」「障害のある方や世界の国々の人々と交流し、共生と異文化を理解する教育」</p> <p>●ICTを活用したGIGAスクール構想の実現を目指す。⇒全児童へ貸与されたタブレットPCや大型ディスプレイを有効活用しながら、全教員が足並みをそろえてGIGAスクール構想の実現を目指す。</p> <p>●教科担任制を導入し、中学校への円滑な接続を図る。⇒新宿区の指針により、5・6年生の教科担任制を進め、より多くの教員による授業を受けられる環境を整える。</p> <p>●開校100周年を契機とし、学校・地域を愛する心を育成する。⇒来年度の開校100周年記念行事に向けて、記念集会、記念式典、祝賀会、同窓会の準備を組織的に進める。</p>	<p>●道徳科を要として教育活動全体を通じ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。⇒教科書や東京都道徳教育教材集を活用し、道徳的価値について自分のこととして考え、多様な考え方や感じ方に接する場を設定する等、学習指導の工夫・改善を行うと共に道徳授業地区公開講座を通して、命の大切さや自己の生き方に関わる「いのちの教育」の充実を図る。</p> <p>●特別活動の目標を共通理解し、児童の自治的な活動を活性化する。⇒主に、学級活動において「相手意識」「目的意識」を重視した実践を積み重ね、児童会活動、クラブ活動、学校行事などにおいても、主体的に取り組む児童を育成する。</p> <p>●社会貢献の意識の育成⇒新宿養護学校との交流、地域清掃、ふれあい給食等の活動をとおして、「共生社会」の一員である自覚と実践力を育成する。</p> <p>●6年生を手本とする伝統の継承、たてわり班活動の充実を図る。⇒小規模校の特性を生かし、異学年交流を活性化させ、なかよし班（たてわり班）遊び・給食・清掃等を通して、上学年の姿から学ぶ伝統を継承する。</p> <p>●幼・保・中との連携を推進する。⇒年2回の小中連携協議会、年3回の保幼小合同会議を通して、保幼・小・中12年間のスパンで幼児・児童・生徒を育成するための連携教育を推進する。</p> <p>●生活指導を徹底する。⇒学校としての指導方針を明確にし、規律ある生活態度を育成する。保護者や地域と児童の現状や課題についての共通理解を図り、共に指導していく。</p> <p>●体力向上を計画的に目指す。⇒スポーツテストやスポーツギネスを生かした運動や遊びの工夫、なわとび甸間・持久走甸間の計画的実施、本物から学ぶゲストティーチャーを招へいする。※オリンピック・パラリンピック教育については、そのレガシーを継続する。</p> <p>●食や命を大切にする心を育成する。⇒食の原点にある命を実感させる工夫（野菜や穀物を育てて食べる）、生き物とかかわる体験の工夫をする。</p>	<p>●学校経営方針の実現に向けた教育活動を計画的に推進する。⇒経営方針を具体化するための自己申告による計画を作成し、PDCAサイクルに基づいた経営を進める。また、副担任制により、低・中・高学年ごとに学習や生活の支援を行なうとともに児童についての相談を深め学級運営に関わる。</p> <p>●授業力の向上を図る。⇒学級経営と学力向上を両輪とした教育活動に全員で取り組む。また、対象児童の短期間での退級を目指し、まなびの教室との連携を強化し、ユニバーサルデザインの視点で授業改善と指導法の工夫を推進する。</p> <p>●児童と向き合う時間を確保する。⇒教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方・感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気を日常の学級経営で構築する。そのために、3S（整理・整頓・清掃）や初期対応の重視に加え、校務改善を継続し、E A - S S S のサポートを得、庶務的・事務的な業務や教育活動の精選を図り、児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>●本物から学ぶ活動の工夫と効果を上げる努力をする。⇒意図的・計画的な「本物」の活用を通して児童に感動的・効果的な「本物」との出会いをつくる。</p> <p>●家庭・地域との連携を大切にした教育活動⇒諸通信や教育実践の公開、地域行事への協力、学校HP、一斉メール等を通じた積極的な教育活動の発信を行うとともに、地域協働学校を核とした連携を推進する。</p>

(4) 校内外における安全の確保

- 安全教育の充実を図る。⇒児童の危険回避能力や行動選択能力の向上をめざし、避難訓練・地域防災・生命尊重を含めた安全教育の充実を図る。
- 人権感覚を醸成する。⇒学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止や早期発見・早期解決に向けた迅速で組織的な対応を行う。また、教職員の人権感覚を磨き、全教育活動において児童の人権意識を高める。

